

カトリック六甲教会 教会報

2013

3

No.495

なぜ、ゆるせないのか？ ～四旬節にあたって、ゆるしを考える～

片柳 弘史(助任司祭)

他の人はあまり気にしていないようなのに、自分だけがある人の言動をどうしてもゆるせない、そんな話をときどき聞きます。なぜ、そんなことが起こるのでしょうか？

以前にこんな体験をしたことがあります。食卓である人が、自分の能力がどれほど優れているかについて延々と自慢話を始めました。初めは「へえーっ、すごいな」と思って聞いていたのですが、10分、20分と聞いているうちにわたしはだんだん腹が立ってきました。「なぜ、この人は自分の話ばかりするのだろう」と思い始めたのです。

食事が終わって一緒に席にいた仲間に、「今の話し、どう思った。ぼくは途中から腹が立って聞いていられなかったよ」と話すと、意外にも「そう。ぼくは別に気にならなかったけど」という答えが返ってきました。

帰院してから、わたしは、なぜ自分はあの場面で腹を立ててしまったのだろうと考えました。しばらく自分自身の心の中を見ているうちに気が付いたのは、自分自身の心の中に「わたしの話を聞いてほしい、わたしの能力を認めてほしい」という思いがあることでした。つまり、わたしの怒りは、「なぜあの人がばかり話すんだろう。ぼくも話して、みんなから注目されたいのに」という怒りだったのです。

そのことに気づいてからは、同じ場面に出くわしても、もうほとんど腹が立たなくなりました。「ああ、あの人も自分の存在を認めてほしいんだな。ここは聞いてあげよう」と思えるようになったからです。

そういう目で世の中を見ていると、同じようなことがあちこちにあります。例えば、どういうわけか執拗に目上や権力者を批判し続ける人。そんな人に限って、自分が力を握ったときには横暴な専制君主のようになることが多いようです。結局、その人が権力者を批判していたのは、自分が権力者になりたかったからなのでしょう。自分自身がケチな人に限って、他の人がケチなのを批判するということもあるようです。



自分を出したくないのに、他の人がそう思っているのはゆるせないのです。

結局のところ、わたしたちは自分と同じことをしている人をゆるせないのかもしれない。

使徒座空位中ならびに新教皇選出時のミサについて

2013年2月19日
日本カトリック司教協議会
会長 池長 潤

教皇ベネディクト16世は2月28日午後8時（日本時間3月1日午前4時）をもって教皇職を離れます。その後、新教皇が選出されるまでは使徒座空位となります。使徒座空位中ならびに新教皇が選出されたときにミサをささげる場合は、以下の点に留意してください。

1. 教皇選出のためのミサ

新教皇が選出されるまで、教皇選出のためのミサささげることができます。そのための公式祈願は現行『ミサ典礼書』に記載されていませんが、ラテン語規範版に記載されている公式祈願を2012年度臨時司教総会において暫定的に認可しましたので、この祈願を使用することができます（別紙参照）。

聖書朗読箇所などは、『朗読聖書の緒言』（66）～（67）頁の「3 教皇あるいは司教の選出のため」、または『教会暦と聖書朗読2013年度』110頁の「1. 教皇・司教の選出のため」を参照してふさわしい箇所を選びます。

ミサの奉献文は、『ミサ典礼書』に記載されている奉献文以外に、1999年に暫定認可されている「種々の機会のミサの奉献文 一」を使用することができます。

なお、このミサは、教区司教の命令または許可によって、四旬節の主日と聖週間を除いてささげることができます（「ローマ・ミサ典礼書の総則（暫定版）」374参照）。

2. 奉献文の取り次ぎの祈りについて

教皇ベネディクト16世が教皇職を離れるまでは、奉献文の取り次ぎの祈りは通常どおり唱えます。2月28日午後8時（日本時間3月1日午前4時）以降は使徒座空位が始まるので、新教皇が選出されるまでは取り次ぎの祈りから教皇の名前を省き唱えます。

3. 新教皇が選出されたときのミサ

新しい教皇が選出されたときには、教皇のためのミサをささげることができます。このミサの公式祈願は、『ミサ典礼書』補遺として作成された公式祈願を使用します。カトリック中央協議会のウェブサイト（http://www.cbcj.catholic.jp/publish/hoi/for_pope.pdf）に掲載されています。

聖書朗読箇所などは、『朗読聖書の緒言』（56）～（57）頁の「4 牧者」、または『教会暦と聖書朗読2013年度』106～107頁の「4. 牧者」を参照してふさわしい箇所を選びます。

ミサの奉献文は、『ミサ典礼書』に記載されている奉献文以外に、1999年に暫定認可されている「種々の機会のミサの奉献文 一」を使用することができます。

なお、このミサは、教区司教の命令または許可によって、四旬節・復活節の主日、主の復活の8日間、聖週間を除いてささげることができます（「ローマ・ミサ典礼書の総則（暫定版）」374参照）。

以上

忘れないで！

東日本の被災地から (12)

「あれから二年」

今月 11 日、丸 2 年を迎える東日本大震災。被災された方々で未だ 2,698 人（2013 年 2 月 12 日現在）の方々が行方不明となっている。

行方不明の方々に対する搜索は、被災した宮城沿岸部（気仙沼湾、石巻湾）だけを集中搜索しているとのこと、他の地域での搜索はしなくて良いのか。この現実を行方不明となって必死に今も搜索しているご家族の方々は、どの様に受け取っているのか。また搜索にあたって、海に潜れる者が少ないため、わずか 95 人体制で搜索活動をしている。水温 5 度、低水温での活動は体力の消耗が激しい。TV を通して見る彼らの勇姿に感動させられる一方、遅すぎる行政の対応に激しい憤りと苛立ちを感じる。

搜索者の一人は、仲間である行方不明者を必ず見つけると、毎日搜索活動を行っている。その決意と搜索活動に心から感謝すると同時に、励ましの祈りを届けたい。そんな矢先、彼らの耳に搜索活動が近い将来、打ち切りになると知らされた。この非情な知らせ、未だ行方不明の被災者を持つ身内の方々に一体誰が伝えるのか。今も耳に聞こえる被災者の悲痛な叫び「何も悪いことしていないのに、一生懸命働いてきたのに、どうしてこんな目に遭わなければならないのか。」この声が、耳元に重く響く。

広範囲におよぶ大きな被害を受けた東日本大震災、行方不明者をはじめ、二年前と殆ど変わらない地域と変わった地域との間に大きな格差がある。殆ど進展していない復興住宅、ここにも大きな格差がある。どれを見ても「えっ？」と信じたくない光景が、今も目に飛び込んでくる。当初、避難所で互いに助け合い支えあった仲間たち、そこで自然に生まれた暖かい絆、その絆が仮設住宅への引越しから壊れ始めた。また仮設住宅でやっと共同体のつながりができた頃、復興住宅へ移ってまた壊され、被災者の方の心をズバズバに引き裂いた。この避難所から仮設へ、仮設から復興住宅へ移る間、大切な絆を失った。被災者の思いを無視した住居移転が壊したのである。その結果、日増しに生じる悲しい出来事・・・この現実を知る人は少ない。

福島県は震災と津波による原発事故による放射能汚染。福島県民の方々、特に事故周辺の町村に住んでいた人々は、突然、あの日から自分の町村を追われ、未だ避難生活を強いられている。将来どうなるのか全く知らされない不安な生活が続き、二年が経とうとしている。彼らは一日も早く元の生活を望んでいるが、普通の生活はいつになるのか誰も知らない。人間には誰でも限界がある。遅すぎるかもしれないが、早期に彼らへ生きる希望を運ばないと、原発が、行政が、彼らの心を根こそぎ奪ってしまう。



東日本大震災の復旧、復興の遅延理由は、あまりにも広範囲に及ぶ地域であること。また被災された方々の職業が、漁業、農業、酪農、林業、自営業といった職種が多く、現場が復旧しない限り復興への仕事を始められない。そのため政府は、被災した漁場、農地、牧草地、山林など早期に復旧させる必要がある。したがって、復興ではなく、復旧の遅延による職の喪失を食い止めることが大切である。なぜなら早期復旧こそ、被災地へ、被災者の方々へ明日につなぐ復興の架け橋だから。

二年経って被災者の方々の抱えた問題は解決どころか、時間が経つほど種々の問題が山積している。現在も被災者の大半の方々の生活は、二年前とそれほど変わっていない。一日も早く被災者の方々に普通の生活を取り戻して戴くために、彼らへの「援助と祈り」を私たち信徒の信仰年の課題としたい。

さて、一年間続けてきたシリーズ「忘れないで！（東日本の被災地から）」は一旦、終了します。

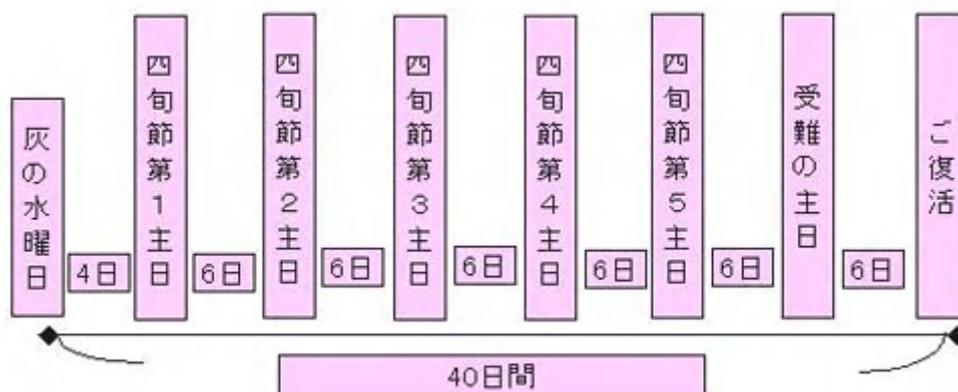
終了したから東日本大震災を、被災者の方々を忘れるのではなく、これからも現地ボランティアに参加した方々からの新しい現地情報の投稿をお願いします。

六甲教会では、東日本大震災の被災者の方々のために寄せられた支援・義援金を、今後も現地ボランティアに派遣される方の支援として、また現地被災者の方々の義援金として助成し続けます。どうかこれからも被災者の方々のために献金とお祈りをお願いします。感謝のうちに。

主任司祭 松村信也



四旬節について (Paoline・Laudate より)



灰の水曜日をもって、典礼暦年(教会カレンダー)では、四旬節に入ります。四旬節はもともと、洗礼の準備期間でした。復活徹夜祭に新しく洗礼を受ける洗礼志願者の準備として、イエスが公生活のはじめに砂漠で40日断食をされたことになり、40日の祈りと節制をする期間としてはじめられたものです。

やがて、すでに洗礼を受けた人も洗礼を受けた時の志をもう一度新たにするために、全教会で行われるようになりました。8世紀ころの教会では、もっぱら節制の期間と考えられていましたが、第2バチカン公会議は、洗礼準備期として再度取り上げ、四旬節に読まれる聖書朗読と典礼は、洗礼志願者の教育に向けたものにしました。四旬節は、キリストの死から復活への過越の神秘にあずかる信仰を確認する時なのです。四旬節の典礼によって、洗礼志願者はキリスト教入信の初段階をとおして、すでに洗礼を受けた信徒は、洗礼の記念と償いの業をとおして、過越の神秘の祭儀にそなえます。

四旬節の心を大切にしながら、この40日をすごすように、またご復活祭で洗礼の恵みにあずかる方のためにお祈りしましょう。

2012年度 小教区拡大評議会 議事録

- ◆ 日 時：平成25年2月9日（土）10:00～13:00
- ◆ 場 所：イグナチオホール
- ◆ 出 席 者：松村主任司祭、片柳助任司祭、議長団、評議員、その他関係者



1. 報告事項

(1) 神戸地区宣教司牧評議会報告

- ・片柳地区長の挨拶では、①信仰年の取り組みを各小教区においても更に進めて欲しい。
- ②神戸地区宣教司牧評議会は、司祭の参加人数や会議の頻度回数などについて規約改正を進める。
- ③高山右近列福運動推進委員会では右近を考える人達を各教会より推薦して欲しい。そして、列福運動においては2億円くらいかかるので、取りあえず1億円の募金を皆様にもお願いしたい。との話があった。また右近の会への参加は信徒の自主性に委ねることとした。
- ・「ふっこうのかけ橋プロジェクト」については、収入約430万円、支出約330万円で、剰余金としては約60万円の見込み。今後も神戸地区青年委員会が担当して継続する。
- ・クリスマス・チャリティ・コンサートは230人の参加、12グループの出演で、カンパ112千円が集まった。
- ・大阪大司教区神戸地区社会活動委員会とカトリック中央協議会カリタスジャパンと共催して「自死の現実を見つめて」ー私たちにできることーと題し、セミナー&分かち合いを3月17日（日）13:30～17:30,神戸中央教会で行う。

(2) 東ブロック合同堅信式について

- ・5月12日（日）六甲教会の10時ミサの中で行われる。準備の勉強会は各小教区で行い、合同勉強会はその1週間の日曜日午後に行う。これについては2月17日に3教会が集まって、詳細について詰める。
- 今回は六甲教会で行うため、ミサは典礼部、パーティは灘北2が担当するが、その他会場設営、堂内案内、駐車場整理などについては、典礼部と次期地区会代表と相談して決める。
- （住吉、中央教会からも応援あり）また受堅者人数については現在、掌握中。

(3) 各部・各会からの報告

◆ クリスマス関連の行事について

- ・教会学校については特に問題なく終えることが出来た。
- ・「クリスマス音楽の集い」は、1部にプロ、2部に聖歌隊、混声合唱団、女性アンサンブルなどちょっと賑やかなクリスマスらしい音楽会となった。会場での募金は71,222円だった。
- ・典礼関係については、灘北2に聖堂案内、駐車場整理、準備と片付けなどのお手伝いをしていただき感謝している。またミサの時間について、21時のミサは極端に参列者が少ないので時間配分を検討して欲しい。と言う意見があったが、高齢化の影響及び会社勤め人

の為に現状維持となった。

また3回のミサ全体を統括する責任者も必要ではという意見もあった。

一般の人の中には、24日をクリスマスと勘違いしているが、本来は25日。この現象は日本固有の傾向とのコメントがあった。

◆新成人祝福式と教会新年会について

- ・今回は灘東南地区が担当し、前日、当日合わせて25名の方にお手伝いしていただいた。当日の新年会参加者は120名弱で、新成人も5名の参加があった。費用は93,500円で、予算内に収まった。また新成人からも力強いコメントがあり、いい新年会となった。

(4) 次年度新役員の紹介

- ・評議会の議長団、評議委員、地区役員の次期役員候補の発表があり、承認された。

(5) その他

◆教会の財政状況について（松村主任司祭）

- ・現状の財務状況について、収入面では特別な変化はないが、支出において建物・備品等のメンテナンス費が増加し、毎年平均1,000万円が予算計上される旨の説明があった。（一般信徒には6月の小教区評議会年次報告会で説明を行う）

◆広報部から備品の購入について

- ・折り器が老朽化したのとビデオカメラの購入について承認された。

2. 報告事項

(1) 平成25年度教会年間行事カレンダー

- ・次年度の月別行事予定について検討され、決定された。

(2) 平成25年度小教区評議会予算編成について

- ・特に支出が多い施設管理部について多くの意見が出されたが、今後も大口の支出計画があり、引き続き検討していく。
- ・オルガンチームについては、リーダーの馬場さんが欠席の為、近日中に蛭田代行がメンバーを召集し、新役員、会計運営などについても詰めていく。

(3) 部の名称及び六甲教会の組織変更について（蛭田）

- ・宣教部と養成部は組織上並列となるが、養成部の宣教部と重複するイベントは整理し、宣教部が一元管理する。
- ・墓地委員会を司教団の下につける。
- ・地区会のコーディネーターは「地区役員代表」と改める。

(4) 神戸地区大会参加者（バス利用者）の費用負担について

- ・前回の三田で行われた事例に基づき、かかる費用の総額の半額負担とし、残りは教会負担とする。

2012年度第6回地会議事録 (2013年2月3日)

1 新年会を振り返って 東灘南地区

役員3人+ブロック世話人6人で運営チームを作り担当。前日と当日で延べ25名ほど参加。若い方が多く、他の地区からうらやましいという声が寄せられた。

2 新年度の地区会の体制について

① 地区役員会の体制

地区会代表 1名(地区長とブロック長から互選)

現在のコーディネーターに代わる仕事をする。

評議会(及び準備会)に出席、地区役員会の司会 名簿管理、

地区会予算案作成、メールシステムのチェックその他

地区会運営チーム

地区役員代表と補佐2~3名(地区役員会から互選)からなるチーム。

地区会代表の役割を補佐し地区会を運営する。

変更 地区役員会に評議会議長の出席を依頼する。

地区役員会の構成を主任司祭、評議会議長、地区長、ブロック長、副地区長とする。

3 今後の日程と役割分担

① 掃除当番表の作成および印刷 2月末 東灘北1

② 2013年度版「カトリック六甲教会のしおり」及び連絡網配布 3月末 灘西・中央

③ 復活徹夜祭手伝い 3月30日(土) 灘南

④ 東ブロック合同堅信式 5月12日(日) 準備会2月17日(日)担当 灘北2

⑤ 納涼の夕べ 8月17日(土) 灘南、灘西・中央、東灘北1、東灘北2・芦屋、東灘南

⑥ バザー 11月10日(日) 全地区担当

⑦ 大掃除 11月16日(土)

⑧ 主の降誕(夜半のミサ)手伝い 12月24日(火) 灘西・中央

⑨ 新年会 1月12日(日) 担当 灘北1

⑩ 2014年度掃除当番表作成および印刷 2014年2月末

⑪ 2014年度版「カトリック六甲教会のしおり」及び連絡網配布 2014年3月末

☆ 地区役員会(予定)

4月7日(日), 5月26日(日), 7月21日(日), 9月8日(日)

11月16日(土), 2月2日(日)

●他の行事担当については次回地区役員会で決定する。

●チャリティーバザー、納涼の夕べ、掃除(大掃除及び掃除当番表作成)、しおり配布の担当者は役員会のなかから代表を選び、その人を中心に地区を越えて数名のチームを作って担当する。

4 新年度移行期への課題

① 2013年度連絡網…事務所の信徒台帳から名簿を作成し各地区別に作成しなおすのでそれをもとに3月10日までに旧役員が新役員と協力しながら責任を持って作成

② しおり・連絡網の配布…3月3週目以降

③ 転入者・受洗者案内カード…変更箇所をコーディネーターに知らせる

④ メールシステム加入のアドレスを現行の名簿と照らし合わせてほしい。

⑤ 新しく役員になられた方のメールアドレスをコーディネーターまで知らせてほしい。

5 その他

神戸地区大会への参加 6月9日(日) 淡路市立しずかホール

各地区7名以上の参加を呼び掛ける。

セミナーのご案内

自死の現実を見つめて—私たちにできること—

- ・日時：3月17日（日）13：30～17：30
- ・場所：カトリック神戸中央教会
- ・内容：基調講演 幸田和生司教（カリタスジャパン担当司教）
講演1 尾角光美（Live on 代表）
講演2 深尾泰（大阪自殺防止センター所長）
わかち合い
- ・入場：無料・
- ・要申込（締切日3月3日）
- ・詳細・申込 神戸地区社会活動委員会

E-mail: sinapiskobe@yahoo.co.jp

Fax 078-221-4733

*チラシ裏面が申込用紙となっています。

共催：カトリック大阪大司教区 神戸地区社会活動委員会

カトリック中央協議会 カリタスジャパン

協力：カトリック大阪大司教区社会活動センター・シナピス

自死を取り巻く現状を踏まえて、私たちに何ができるのかを共に考える機会となれば幸いです。

ぜひ、お越しください。会場でお会いできることを楽しみにしています。

男の料理教室

「男の料理教室」では新会員を募集しております。

退職後の時間を有効に使い、奥様の家事労働に少しでも協力したいと思っておられる方、一人暮らしで食事を作るのも面倒になった方、毎日の献立を考えるに苦勞しておられる方・・・老若男女を問わず大歓迎です。

*教室は毎月第3水曜日 午前10時から開催



《 各部だより 》 各専門部会の活動をお知らせいたします。

📖 **小教区評議会**

3月17日(日)10時ミサ後 小教区評議会

📖 **三日月会**

3月18日(月)例会

📖 **教会学校**

3月9日(土) 教会学校終業式・卒業式
3月16日(土)～17日(日) 高学年錬成会

📖 **施設管理部**

3月24日(日) 部会

📖 **典礼部**

3月24日(日)10時ミサ後 主聖堂にて
「受洗者代母の準備会」
「聖なる過ぎ越しの三日間の準備会」

📖 **広報部**

3月30日(土) 教会報印刷

《 お知らせ 》 教会のみなさまに知って頂きたい活動やお知らせです

★社会活動部より★

3月6日(水)10時 ♪手芸の集い 第1・2会議室 どなたでも参加ご自由です。
9日(土)10時 ♪炊き出し お台所 小野浜グラウンドにて配食やおじさんたちとの
お話し相手だけでもOKです。
10日(日)10時ミサ後 ♪ふれあい広場 イグナチオホール
お弁当・手芸品・雑貨等の販売
15日(金)9時 ♪ともしびケーキ作り イグナチオお台所
21日(木)14時 ♪ベタニアの集い イグナチオホール 聖体拝領式&茶話会
(Fr安

芸)

《 図書室からのお知らせ 》 図書室より

2013年2月の購入図書

☆ **神父燦燦** —— カトリック新聞 教友社

主日の共同祈願で、召命を祈願していますが、その召命が実際にどう与えられてきたのか、
かって カトリック新聞に連載された記事を掲載しています。若い人たちに神からの招きが多
くあり、それに応える人の多いことを祈ることの必要を共に考えましょう。

☆ 定年退職セラピー 苦しみを意味あるものにするセラピー 怒りセラピー サンパウロ

80 ページ前後の小冊子ではありますが、現代社会に生きる者の精神状況の中で、なかなかしたたかなサポートあるメッセージを著しています。他にも十数冊あるシリーズです。一度手にとってあなたに関心あるテーマの「セラピー」を求める手掛かりにしてください。

2013 年 2 月に次のようなメッセージと共に図書室に寄贈された図書

☆ 神さまからの宿題 —— 山本育海 ポプラ社

『…日本に 60 人しかいないと云われている希少難病と戦っている少年がいます。…小学三年生の時、FOP：筋肉が骨化するという難病（2009 年 12 月に指定）になり、ノーベル賞受賞の山中先生との出会いの中で、i-PS 細胞による治療の道の開発を強く待ち望む親子が、これまで製薬会社などからの協力を全く得られずにきたことを綴った闘いの記録です。一日も早く新薬の開発を共にお祈り下さい。』

2013 年 4 月に神戸で公開されるドキュメント映画の紹介

☆ わすれない ふくしま —— 四ノ宮浩 監督 佐久間肇/遠藤久雄 プロデューサー
エンディングテーマ曲 こいずみゆり

本来は日本一美しい村と呼ばれていた 原発の爆発事故の被災地・飯館村から避難している一家の日常と、警戒区域の中で 3000 頭の牛を飼っている畜産家、2 月 18 日の新聞に自死した畜産農家のフィリピンからの妻の補償を求める裁判請求の記事がありましたがその遺書の記録…などこの震災・福島第一の爆発の反省なき現実を告発しながらも、毎日闘いながら生きる人々の記録です。冒頭 『佐久間みち江さんに捧ぐ』とのテロップがあります。
元町映画館にて 4 月 13 日から 19 日まで上映。是非ご覧下さい。



みんなの広場

Resurrexi !

ヨハネ三好

御復活主日のミサは嘗ても今も単刀直入、この一言で始まる。「蘇った」。

クリスマスは親しい。だが、「主の復活」はどうか。以前一度書いたことがあったと思うが、それは戦後しばらく経った聖週間に長束の黙想会に行く機会に恵まれたこと。"こいつはこのままにしておいてはよろしくない"と考えられたのか。黙想会ということだったが、講話を聞いたのは僕と手空きの修練士一人か二人だけだった。指導師は何とフィステル神父様、黙想の内容は御受難と御復活、豪華黙想

会だった。毎晩「晩課」があった。初めての経験だったがラテン語、枘居修士が貸して下さった羅英対照の典礼文で英語の単語から多分こうだろうと想像しながら与った。日曜日、御復活主日のミサで黙想が明けた。明るい晴れた朝だった。何とも贅沢な「御復活」だった。このときからあまり親しくなかった「聖週間」、「御復活」がクリスマスより身近なものになった。日常から離れ互いに言葉を交わすことなく沈黙の内に過ごす三日間、今は特別の贅沢になってしまったのでは。

霊と肉を併せ持つものとして創られた人間には、肉の感覚が靈性に及ぼす影響は無視できない。典礼が肉の動きによって行われる意義もそこにあるのではないか。肉の動きの故に往々肉の動きが目的になってしまはないか。

“R e s u r r e x i” 聖週間、御復活の典礼に与りながら、日々の営みに埋没しては果たしてこの一言を味わえるだろうか。（終）

映画「いのちがいちばん輝く日—あるホスピス病棟の40日—」

蛭田

人は必ず死を迎える時がある。そんな死を目前にした患者さんのホスピスをテーマにした映画「いのちがいちばん輝く日—あるホスピス病棟の40日—」を観てきました。（今、医療関係の仕事に従事しているので、その観点から観たいなと思ったので）

映画の舞台は琵琶湖の近くにあるキリスト教系のヴォーリズ記念病院の「希望館」で、一人の医者と看護師、スタッフそして、ガンの末期の患者さん達との40日間のドキュメンタリーです。

人は死を宣告された時に何を思い、何をしようとするのか、そして家族は…。この映画からいくつかのことを考えさせられました。「生命」はなくなるけれど、その人の「いのち」は看取る人達の心の中に引き継がれる。ホスピスは「支える」のでなくて、「悲しみに寄り添う」ことだということを知りました。人は死を自覚することで、初めて生きている今日一日の大切さ、充実感を得るのかも知れません。医療従事者としての立場で観るつもりで行った映画でしたが、観ているうちに将来の自分の姿をそこに思い浮かべていました。

この映画の監督は「よりよく生きるとはどういうことか、一緒に考えてもらうきっかけになれば」と話しておられます。

この映画は3月8日(金)まで元町映画館で毎日11時から1回上映されています。皆さんホスピスに関心があるのか、私の行った日も満席でした。是非、お近くの方は観に行かれることをお勧めします。尚、元町映画館は元町商店街4丁目（JR元町駅下車）にあります。（TEL078-366-2636）

広報部員のつづき

早いもので今年も2か月があっという間に過ぎ去りました。あちらこちらで梅もほころび、やっと寒い冬から春への

序章が聞かれる今日この頃、四旬節を迎えて「キリストの死と復活」は、自分自身を見直すいい機会だと思っています。

イエスは「わたしについて来たい者は、自分を捨て、日々自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい」と私達に命じておられます。私自身、この四旬節の間「わたしにとっての十字架とは何だろうか。」「十字架を背負いきれない自分のこだわりは何だろうか。」ゆっくり考える時間だと思っています。

長い、暗い冬を越せば、やがて暖かく、明るい春がやってきます。四旬節にあたって、いいご復活祭が

教会報4月号の発行は、3月31日(日)です。

編集会議は3月24(日)です。

記事原稿は、3月17日(日)正午までに信徒会館
受付へご提出願います。(広報部)

<http://www.rokko-catholic.jp>

カ ト リ ッ ク 六 甲 教 会

〒657-0061 神戸市灘区赤松町3-1-21

電 話 0 7 8 - 8 5 1 - 2 8 4 6

発行責任者 松 村 信 也

編 集 広 報 部